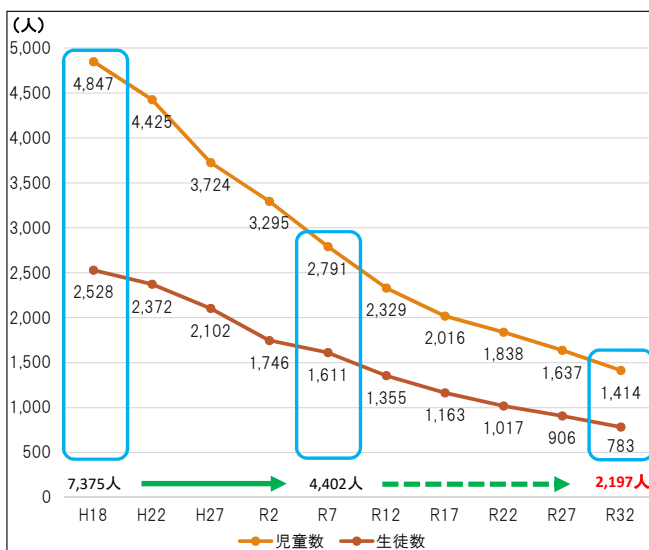


# 1 児童生徒の状況



- 全国的な流れと同様に、渋川市においても人口減少・少子高齢化が進行しています。年少人口(0歳から14歳)もまた、昭和55年以降減少し続けており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も減少していくことが予想されています。
- 児童・生徒数についても減少が続いている状況です。平成18年の7,375人から、令和7年度までに**2,973人の減少(約40%減)**となっており、令和32年までには**5,178人減少(約70%減)**することが予想されています。

# 2 渋川市小中学校の学校規模

## □ 小学校

学校規模	学級数	学校名	児童数	学級数
過小規模校	1学級～5学級	小野上小	15	3
		伊香保小	34	4
小規模校	6学級～11学級	津久田小	94	6
		渋川西小	99	6
		橘北小	111	6
		金島小	136	6
		渋川南小	144	6
		三原田小	178	7
		中郷小	188	7
		橘小	196	8
		長尾小	272	11
		渋川北小	318	11
標準規模校	12学級～18学級	豊秋小	382	13
大規模校	19学級～30学級	古巻小	624	21

## □ 中学校

学校規模	学級数	学校名	生徒数	学級数
過小規模校	1学級～2学級	該当なし	-	-
小規模校	3学級～5学級	伊香保中	32	3
		赤城北中	61	3
		金島中	91	4
	赤城南中	105	5	
	6学級～11学級	北橘中	209	7
渋川北中		249	8	
古巻中		279	9	
渋川中		281	10	
標準規模校	12学級～18学級	該当なし	-	-
大規模校	19学級～30学級	該当なし	-	-

※児童数・生徒数共に、令和7年5月1日時点の通常学級在籍者及び特別支援学級在籍者の合計となります。  
 ※学級数は通常学級数の合計となります。  
 ※学校規模の分類は、学校教育法施行規則第41条の規定をもとに作成したものととなります。

### 3 学校施設の状況

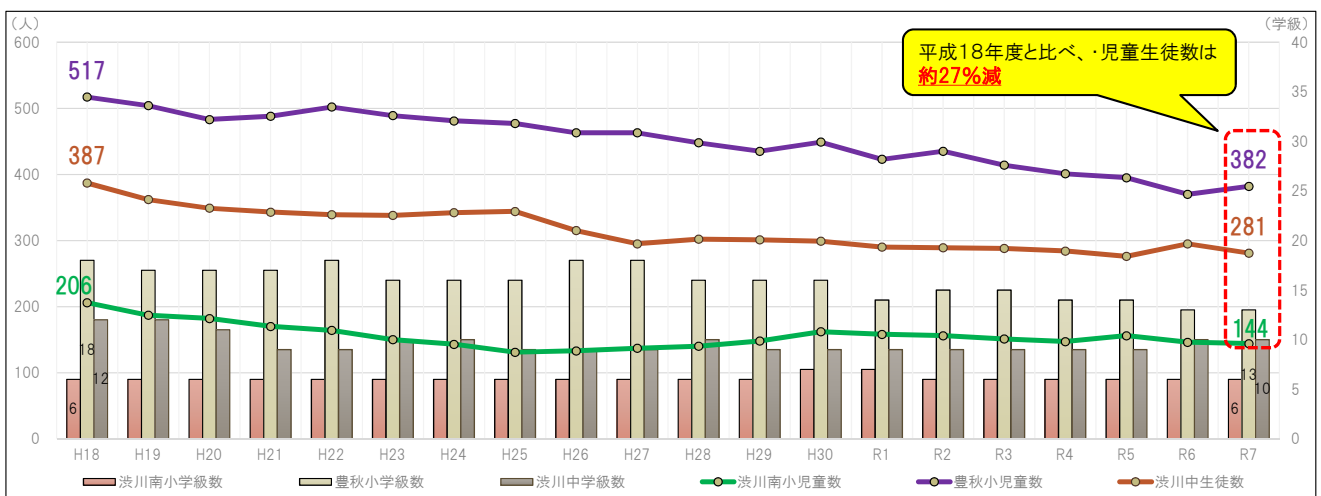
築年数	校舎		体育館・武道場	
	R7	R17	R7	R17
20年未満	0棟 (0.0%)	0棟 (0.0%)	2棟 (6.7%)	1棟 (3.3%)
20年以上 40年未満	4棟 (11.4%)	1棟 (2.9%)	7棟 (23.3%)	4棟 (13.3%)
40年以上 50年未満	17棟 (48.6%)	3棟 (8.6%)	16棟 (53.3%)	4棟 (13.3%)
50年以上 60年未満	9棟 (25.7%)	17棟 (48.6%)	5棟 (16.7%)	16棟 (53.3%)
60年以上	5棟 (14.3%)	14棟 (40.0%)	0棟 (0.0%)	5棟 (16.7%)

※1つの学校の中で築年数の異なる施設が利用されている場合があるため、学校数と棟数は一致しません。

● 渋川市の学校施設は、昭和50年代を中心に多く建設されました。それらの施設の多くは建設後40年を経過しており、老朽化により修繕や更新の時期が近づいています。

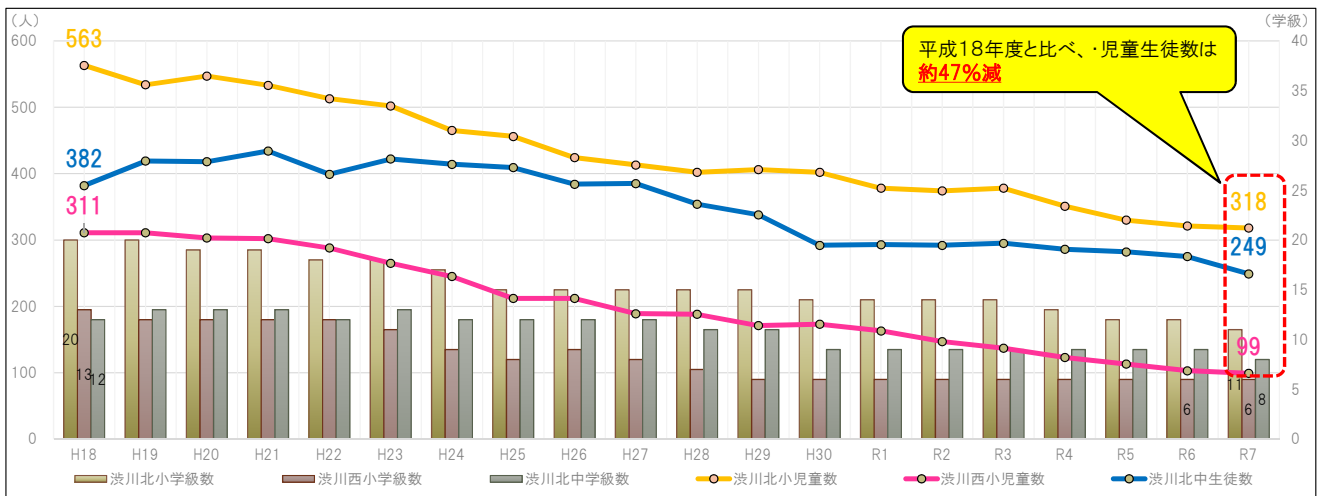
● 10年後の令和17年度には更に老朽化が進み、校舎の約88.6%が築50年以上となることから、計画的な更新が必要な状況です。

### 4 - 1 渋川中区の児童生徒数推移



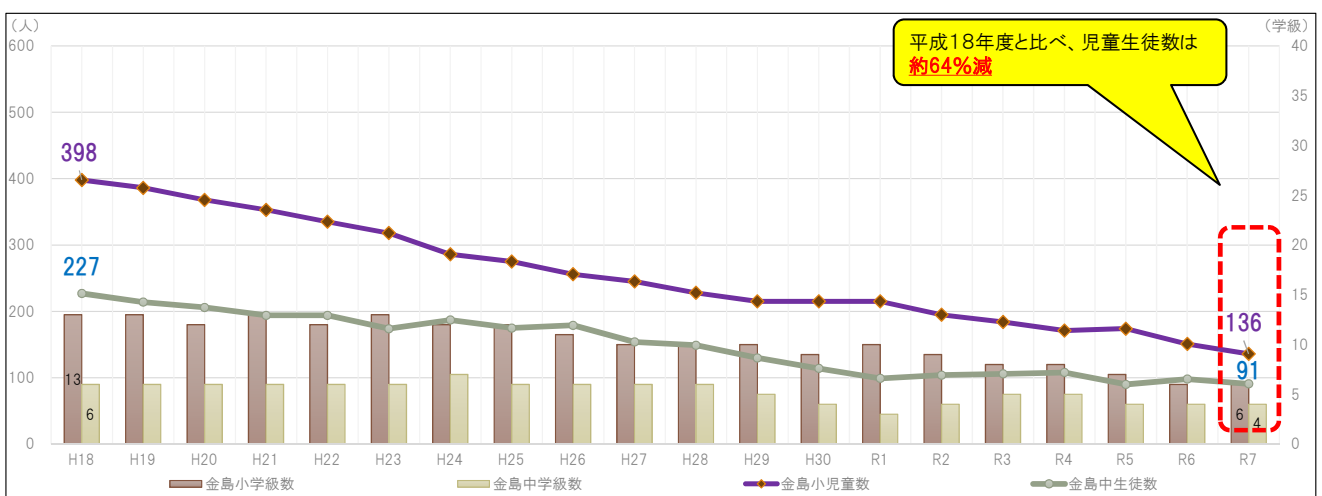
児童数・生徒数共に減少が続いています。合併直後の平成18年度から令和7年度までに**渋川南小は30.1%、豊秋小は26.1%、渋川中は27.4%減少**している状況です。学級数については、増減しながらも**渋川南小は令和7年度まで6学級を維持**していますが、**豊秋小は5学級、渋川中は2学級減**となっています。

## 4 - 2 澁川北中区の児童生徒数推移



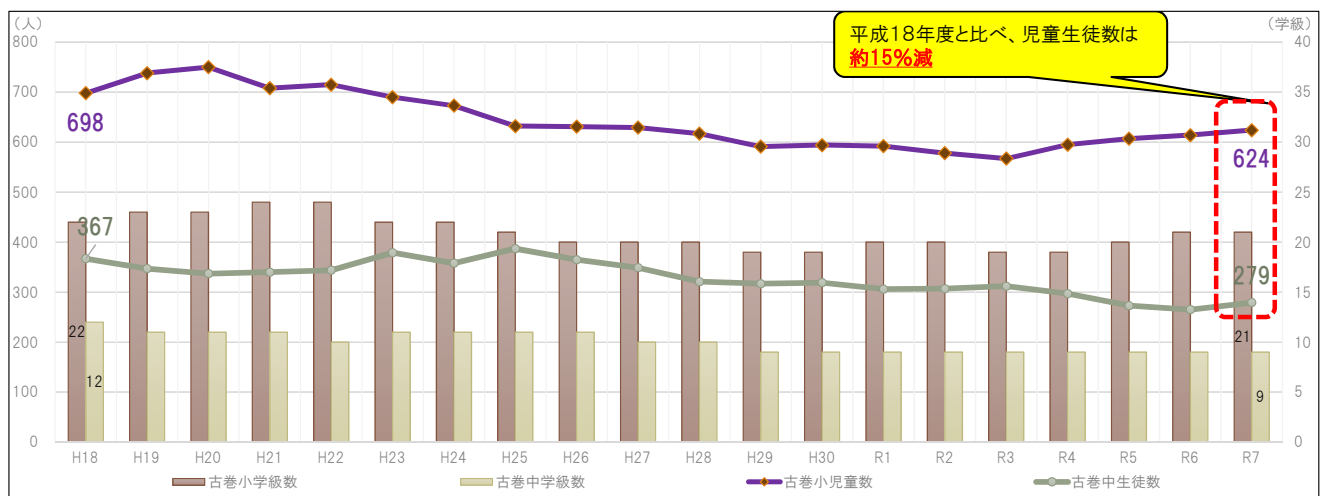
児童数・生徒数共に減少が続いています。合併直後の平成18年度から令和7年度までに澁川北小は43.5%、澁川西小は68.2%、澁川北中は34.8%減少している状況です。学級数については、令和7年度までに澁川北小は9学級、澁川西小は7学級、澁川中は4学級減となっています。

## 4 - 3 金島中区の児童生徒数推移



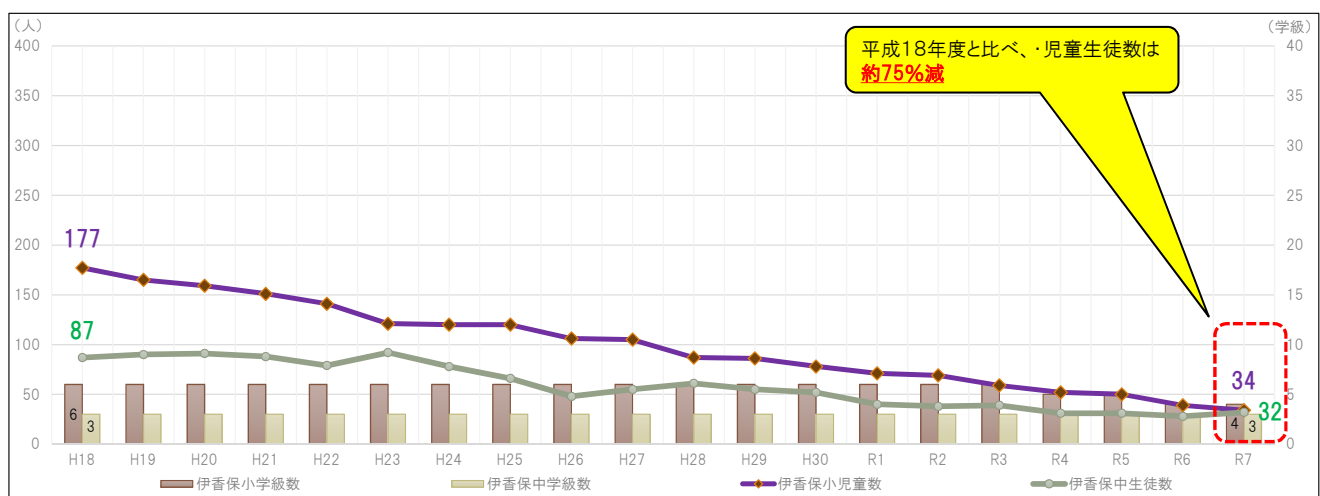
市全体の傾向と同様に、金島地区の児童生徒数も減少基調となっています。合併直後の平成18年度から令和7年度までに児童数は6.1%減少、生徒数は56.8%減少している状況です。学級数については、令和7年度までに金島小は7学級、金島中は2学級減となっています。

## 4 - 4 古巻中区の児童生徒数推移



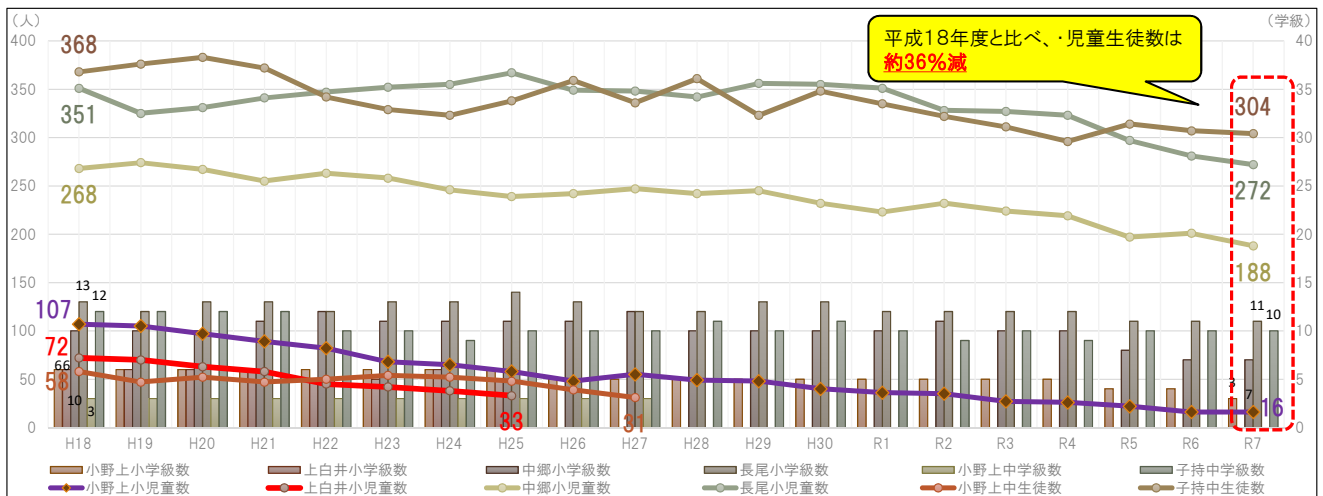
児童生徒数は減少傾向ではありますが、比較的減少幅が小さくなっています。合併直後の平成18年度から令和7年度までに**児童数は10.6%減少、生徒数は24.0%減少**している状況です。学級数については、令和7年度までに**古巻小は1学級、古巻中は3学級減**となっています。

## 4 - 5 伊香保中区の児童生徒数推移



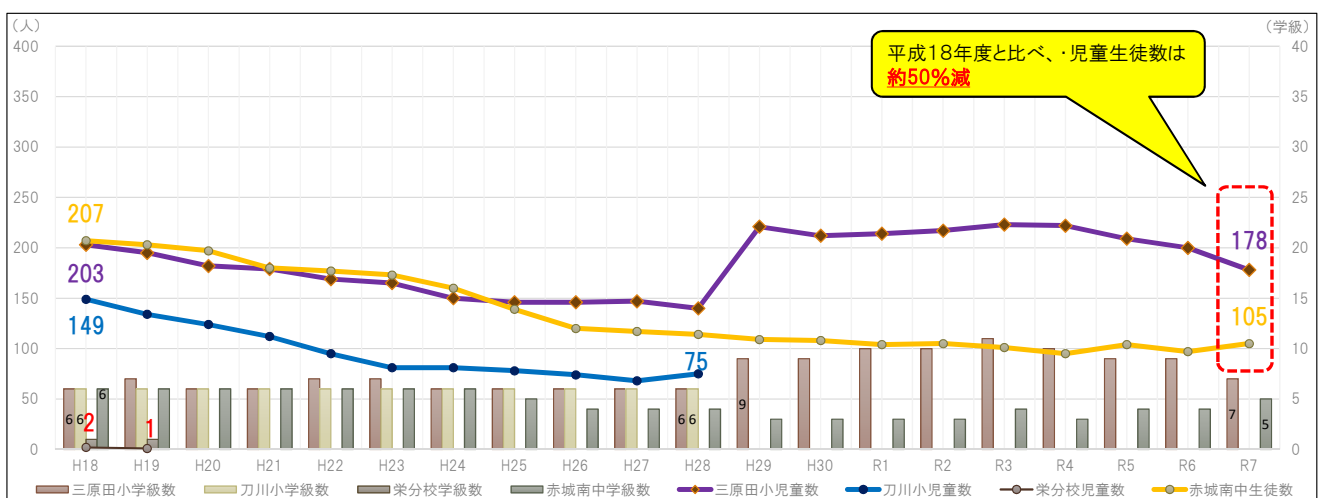
児童数・生徒数共に減少が続いており、令和7年度までに**伊香保小は80.8%、伊香保中は63.2%減少**している状況です。学級数については、令和7年度までに**伊香保小は2学級減**となっており、令和4年度以降については複式学級が生じています。伊香保中は**学級数の増減なし**となっています。

## 4 - 6 子持中区の児童生徒数推移



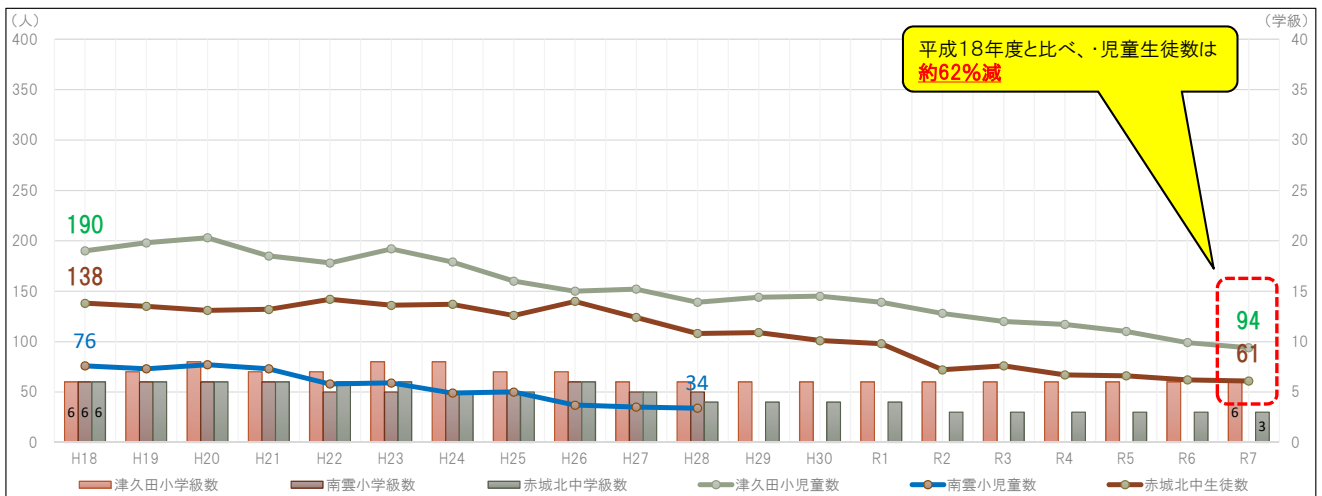
児童数・生徒数共に減少が続いており、令和7年度までに小野上小は85.0%、中郷小(上白井小含む)は44.7%、長尾小は22.5%、子持中(小野上中含む)は28.6%減少している状況です。学級数は、各小中学校で2~3学級程度減少しており、小野上小学校については、令和5年度以降複式学級が生じています。

## 4 - 7 赤城南中区の児童生徒数推移



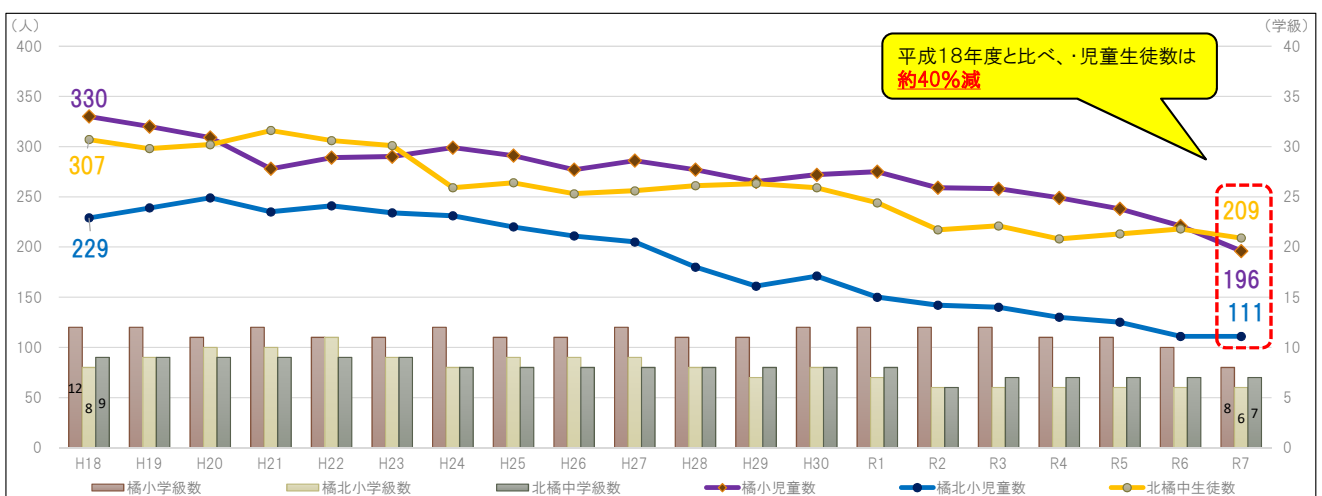
児童数・生徒数共に減少が続いており、令和7年度までに三原田小(刀川小含む)は49.7%、赤城南中は49.3%減少している状況です。学級数は、三原田小は再編統合により一時増加しましたが、その後の減少により7学級となっています。赤城南中は一時減少しましたが若干増加に転じ、5学級となっています。

## 4 - 8 赤城北中区の児童生徒数推移



児童数・生徒数共に減少が続いており、令和7年度までに津久田小(南雲小含む)は64.7%、赤城北中は55.8%減少している状況です。学級数は、津久田小は概ね合併当時の規模を維持し、6学級となっています。一方、赤城北中は徐々に減少しており、令和7年度には3学級まで減少しています。

## 4 - 9 北橋中区の児童生徒数推移



児童数・生徒数共に減少が続いており、令和7年度までに橋小は40.5%、橋北小は51.5%、北橋中は31.9%減少している状況です。学級数は、多少の増減がありながらも減少しており、橋小は4学級、橋北小は2学級、北橋中は2学級の減となっています。

## 5 小規模化により予想される影響

### 小規模校のメリット(例)

- 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、個性や特性に応じたきめ細かな指導を行いやすい。
- 学校行事等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。
- 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい

### 小規模校のデメリット(例)

- 集団の固定化により、切磋琢磨の機会が減少したり、多様な見方や考え方が出にくい。
- 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。
- クラス替えができないため、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。

一般的に、小規模校には上記のようなメリット・デメリットがあると言われていますが、児童生徒の教育環境をよりよくしていくためには、このようなデメリットを解消していく必要があります。